

夜回り

# 山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶ 3 ◀

## 「豪華な弁当、お金が…」しぶる親ら説得



◆山田耕二(やまだ・こうじ) 1942(昭和17)年5月23日生まれ、73歳。74年、西陵商ラグビー部監督に就任以降29年間で全国高校ラグビー大会に19回出場、97年には愛知県勢として史上初の優勝。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

「こんばんはー、西陵商業ラグビー部の山田と申します」

「まあ先生。どうされましたか」

「お母さん、きょうは○○君のお弁当について少しお話があります。…あれではあまりにも量が少なすぎます。とても体が持ちません」

「そんなこといきなり言われましても…」

「日常生活にも満足な栄養さえも取れません。1日5000キロが最低限必要なんです。栄養バランスを考えたお弁当を作ってください」

「でも、そんなに豪華なお弁当を作るほど、うちにお

金の余裕はありません」

「高価なものでなくていいんです。肉は霜降りじゃなくていい、細切れの安いものでいいんです。魚もイワシやサバなどの青身魚でいいんです。安くて栄養価の高いものをたくさん食べさせてやってください」

「さー」

「そんなにたくさん食べさせたらって、うちの子の実力なんてたかが知れています…」  
私は、ラグビーのためだけにダメ出したのではない。「体は社会人としての資本です。どれだけ頭が良くて

も、美人でも、体が弱くては元も子もありません。たくさん食べれば、それだけ丈夫にもなれるんですよ。もやしのような体になるのか、殺しても死なないような丈夫な体になるのか。どっちがいいですか」  
毎日毎日、練習が終わった後に家庭訪問続け、こんな会話を繰り返した。お弁当の話は、保護者に協力してもらったため奔走した毎日のひとこまにすぎない。

◇

# 「たくさん食べさせて」毎日家庭訪問

夜回りまでして高校日本一に導いた山田耕二さんと生徒とのエピソードを連載する。